



渡 邊 昶 議員

余分な経費がかかる焼却灰の  
スラグ化をそのまま続けるのか

問

八穂クリーンセンター（＝

海部地域8市町村で構成する海部地区環境事務組合が運営。鍋田町地内にある）の運営等を尋ねる。

- (1) 18年度に処理したごみの総t数
  - (2) 灰、溶融スラグ〔注〕（以下スラグ）は埋め立てたのか。
  - (3) スラグは再利用できない（規格の）製品だから埋め立てたのか。
  - (4) 溶融炉の年間総経費は。
  - (5) どのくらいのスラグが再利用されているのか。
  - (6) 溶融炉の稼動に約4億5、444万円、有価で利用するはずのスラグは約11tしかなく、全体の0・23%で非常に非効率な処理の仕方である。
- 国は通達でスラグの処理をどう指導しているのか。

(7) 溶融炉は、多くの予算を使って建設されている。固化したスラグは無害で再利用ができ、売れた分だけ灰が処理できるという、本当にいいことづくめでつくられていた。

ところが、約1万tの灰から約4、809tを固化したうち、約1tが売れ約2、000円という状況であった。無駄はいけない。固化することで余分に経費をかけ、埋め立てるといふことだったら何も意味がない。そのまま続けていく気があるのか。

【注】可燃ごみの焼却灰を溶融炉を使い高温で溶かし、固化したガラス状の物質。道路資材等に再利用できる。

答 環境課長

(1) 焼却処理したごみが約8万5、198tで、灰は約1万127t発生した。

(2) 埋立量は、焼却灰と集じん灰（＝焼却排気ガス中に含まれる灰）の合計約5、317tと溶融スラグ約4、809tである。

(3) （スラグ化の）最大の目的は、ダイオキシン削減と減容化であるが、路盤材（＝道路整備時に使用する資材）等にも使用できる。しかし、現実的には金額

が高く、自治体の需要がないのが最大の原因で、大部分は埋立処理をしている。

(4) 約4億5、444万円である。

(5) 18年度中の路盤材等への再利用は約11tで、売価はも当たり200円から231円である。

(6) ごみ焼却施設は必ず焼却灰のリサイクル、溶融固化設備を有していることが（国）補助の条件だったので、こういった設備を付けたということである。

スラグの需要が拡大すれば、粒の大きさを整える磨砕機や貯留用のストックヤード設置を考えていきたい

と聞いている。

しっかりと勉強しなければならぬ

答 市長

(7) スラグの再利用は、値段の高さやどんな製品に転化するか等、研究が十分にされていない。

組合、構成市町村がしっかりと勉強をしていかなければならないと思っている。



▶ 海部地区環境事務組合 八穂クリーンセンター